



FA-Panel6 稼働監視デモシステム 設定手順書

使用接続機器

PATLITE®

- ・ 設置型受信機：WDR-L-Z2
- ・ 信号灯：WDT-6LR-Z2

はじめに.....	3
1. 動作環境	4
2. デモシステムのシステム構成.....	5
3. 機器側の環境設定.....	6
3.1. ワイヤレスゲートウェイとインテリジェントタワーの接続設定	6
4. PC 側の環境設定	8
4.1. デモ用 PC の環境設定	8
4.2. FA-Panel6 のインストール	9
4.3. デモシステムのアプリケーションファイルの配置	10
4.4. デモアプリケーションの環境設定	10
5. デモシステムの基本操作.....	17
5.1. デモシステムの起動方法（かんたん実行）	17
5.2. デモシステムの起動方法（手動実行）	19
5.3. デモシステムの終了方法.....	21
5.4. 信号の手動操作.....	23
6. Appendix：タグー覧.....	25

はじめに

本ドキュメントについて

本ドキュメント「稼働監視デモシステム設定手順書」は、ロボティクスウェアの SCADA パッケージ「FA-Panel6」を用いた稼働監視デモシステムのデモ環境を構築するための設定手順書です。本デモシステムは、パトライト製品である設置型受信機「WDR-L-Z2」と信号灯 LR6 型専用送信機「WDT-6LR-Z2」を実際に接続してすぐに動作させることができます。

本書では、以下の内容について説明します。

1. 動作環境
2. デモシステムのシステム構成
3. 機器側の環境設定
4. PC 側の環境設定
5. デモシステムの基本操作
6. Appendix：タグ一覧

1. 動作環境

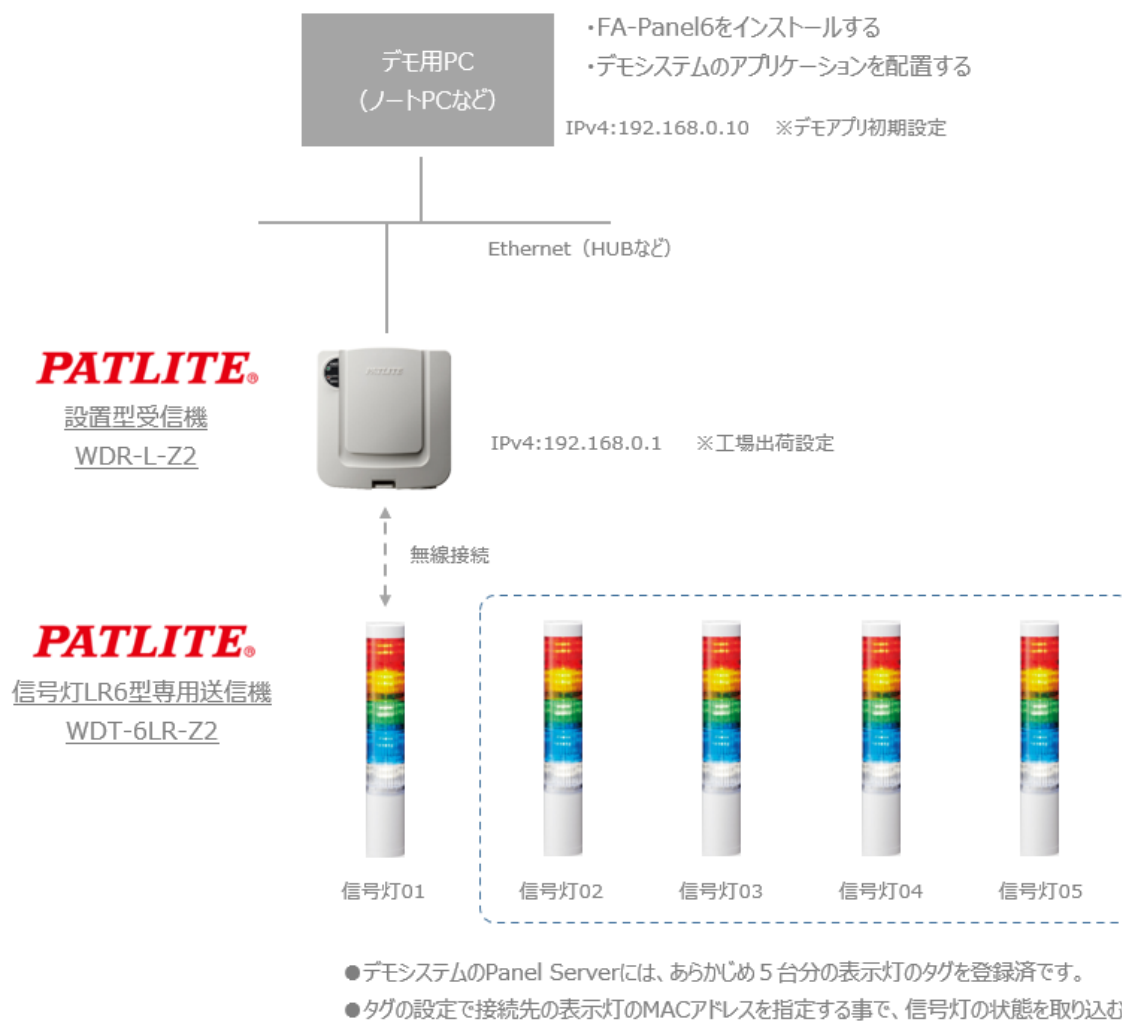
稼働監視デモシステムの動作環境は以下のとおりです。

※お客様へのデモンストレーションでは、動作が重くならない程度の十分なスペックの Windows10 ノート PC 1 台の使用を推奨します。

項目	内容						
使用するパッケージ	<p>FA-Panel6 REV12.3 以上。</p> <p><u>※FA-Panel6 のリビジョンは、必ず REV12.3 以上としてください。</u></p> <p>尚、FA-Panel6 は、大きく分けて以下の 3 つのアプリケーションで構成されています。</p> <table border="1"> <tr> <td> Panel Editor (パネルエディタ)  </td><td>画面を編集するためのツールです。グラフィック画面の作成にはこのツールを使います。</td></tr> <tr> <td> Panel Browser (パネルブラウザ)  </td><td>画面をランタイムとして動作させるためのクライアントアプリケーションです。Panel Editor で作成した設定ファイルを読み込んでランタイム実行します。</td></tr> <tr> <td> Panel Server (パネルサーバー)  </td><td>PLC などの機器との通信や、ロギングなどの処理を行うためのサーバーアプリケーションです。Panel Browser は Panel Server に接続して各種情報を取得して表示します。</td></tr> </table> <p>各アプリケーションの基本的な使い方や操作方法については、FA-Panel の製品マニュアルに記載されています（製品マニュアルは、弊社 Web サイト上でも一般公開されています）。</p> <p>マニュアル URL https://www.roboticsware.com/doc/jp/fa-panel/6/contents/</p>	Panel Editor (パネルエディタ) 	画面を編集するためのツールです。グラフィック画面の作成にはこのツールを使います。	Panel Browser (パネルブラウザ) 	画面をランタイムとして動作させるためのクライアントアプリケーションです。Panel Editor で作成した設定ファイルを読み込んでランタイム実行します。	Panel Server (パネルサーバー) 	PLC などの機器との通信や、ロギングなどの処理を行うためのサーバーアプリケーションです。Panel Browser は Panel Server に接続して各種情報を取得して表示します。
Panel Editor (パネルエディタ) 	画面を編集するためのツールです。グラフィック画面の作成にはこのツールを使います。						
Panel Browser (パネルブラウザ) 	画面をランタイムとして動作させるためのクライアントアプリケーションです。Panel Editor で作成した設定ファイルを読み込んでランタイム実行します。						
Panel Server (パネルサーバー) 	PLC などの機器との通信や、ロギングなどの処理を行うためのサーバーアプリケーションです。Panel Browser は Panel Server に接続して各種情報を取得して表示します。						
対応 OS	Windows 10(IoT Enterprise 含む) / 8(8.1 含む) / 7 / Server2019 / Server2016 / Server2012(R2 含む) / Server2008(R2 含む) の 32bit/64Bit 版						
デモ用 PC 環境	対応 OS が動作する PC。最低メモリ 2 G 以上 HDD 1 GByte 以上の空き容量。						
ネットワーク環境	ワイヤレスゲートウェイと Modbus/TCP で通信接続を行うための LAN ポート、LAN ケーブル、HUB などを用意してください。						
USB ポート	ハードウェアキー無しでデモを行う場合は、FA-Panel6 の Panel Server の制限モードでのオンライン時間（2 時間）に注意してください。必要に応じて、Panel Server をオンライン実行させる PC にハードウェアキーを接続してください。						
接続対象機器	バトライト設置型受信機「WDR-L-Z2」 バトライト信号灯 LR6 型専用送信機「WDT-6LR-Z2」						

2. デモシステムのシステム構成

デモシステムのシステム構成は以下のとおりです。



尚、本デモシステムは、実際に機器が接続されていない状態であっても、FA-Panel6 のみで稼働監視の動作を模擬することができます。詳細については、本ドキュメントの「デモシステムの起動方法」のヒントを参照してください。

3. 機器側の環境設定

実際に機器を接続してデモンストレーションを行う場合は、最低 1 台の設置型受信機「WDR-L-Z2」および、最低 1 台の信号灯専用送信機「WDT-6LR-Z2」を用意して環境を構築してください。



可能であれば、信号灯に何らかのボタン接点を接続し、ボタン操作により設備の状態の切り替えを模擬できるようなデモキットがあれば理想的です。

3.1. ワイヤレスゲートウェイとインテリジェントタワーの接続設定

本デモシステムでは、設置型受信機を介して、信号灯のランプの状態信号をネットワーク経由で取得して稼働監視を行う仕組みとなっています。

本書では機器の詳細な設定手順は説明しません。製品マニュアルを参照のうえ、設置型受信機と信号灯の設定を行ってください。

以下に、デモシステムとして注意が必要な設定事項について記載します。

■WDR-L-Z2（設置型受信機）

受信機の設定は、PC から Web ブラウザ経由で接続して行います。PC の IP アドレスを受信機の IP アドレスと同一セグメントのアドレスに設定し、受信機と PC を LAN ケーブルで接続して、PC の Web ブラウザから受信機の IP アドレスを指定すると、受信機の設定画面を開くことができます。

項目	内容
IP アドレス	デモシステムの Panel Server のドライバ設定では、工場出荷時のデフォルトの IP アドレスに接続するように設定されています。 IP アドレスは変更することも可能ですが、特に理由がない限りは、工場出荷アドレスをそのまま使用してください。 工場出荷時アドレス：192.168.0.1 サブネットマスク：255.255.255.0
ポート番号	ポート番号：10001

■WDT-6LR-Z2（信号灯）

信号灯側の設定は、専用のコンフィグレーションツール「WDS WIN01」を使用して行います。ツールの選択画面から、LAN 経由で接続するか、USB ケーブルを使用して接続するかを選び、機器に接続して設定を行ってください。

本デモシステムでは、同時に 5 台までの信号灯を接続できるようにあらかじめタグの登録が行われています。デモシステムの Panel Server の初期設定では、5 台分のタグのうち 1 台のみが有効となっており、他の 4 台については仮想通信の状態にしています。従って、デモの際には最低 1 台以上のインテリジェントタワーを用意し、接続しないタワーのタグは仮想通信とすることで対応することができます。



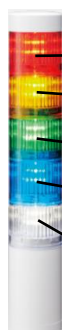
タグの仮想通信とは、実際に機器と接続を行わずに、タグのみで動作を模擬することができる通信モードの一つです。



Panel Server の通信設定では、接続する信号灯の MAC アドレスを登録する必要があります。機器を構成する際に、実際に接続する機器の MAC アドレスを控えておいてください。MAC アドレスは信号灯送信機のラベルに 16 桁の 16 進数で記載されています。通信設定の方法については後ほど詳しく説明します。

本デモシステムでは、信号灯のランプを 1 段目から 4 段目まで使用します。5 段目については使用しませんが、接続されていてもかまいません。

信号灯の各ランプの意味は、以下のとおりとします。



赤ランプ・・・点灯：停止中、点滅：故障

黄ランプ・・・点灯：処置中、点滅：呼出し

緑ランプ・・・点灯：運転中、点滅：予備（未使用）

青ランプ・・・点灯：生産トリガ、点滅：予備（未使用）

尚、生産トリガとは、1 回の生産につき 3 秒程度 ON となるパルス信号とします。

白ランプ・・・点灯：予備（未使用）、点滅：予備（未使用）

4. PC 側の環境設定

4.1. デモ用 PC の環境設定

デモシステムを動作させるための PC を 1 台用意し、以下の設定を行ってください。

項目	内容
IP アドレス	<p>デモシステムでは、受信機の初期設定に合わせて、192.168.0.x のセグメントを使用するように初期設定が行われています。IP アドレスは変更することもできますが、特に理由がない場合は、デモ用 PC の IP アドレスを以下の値にしてください。</p> <p>IP アドレス：192.168.0.10 サブネットマスク：255.255.255.0</p> <p>尚、実際に機器を接続せずに FA-Panel6 のみで稼働監視を実行させたい場合は、上記以外の IP アドレスであっても特に問題なく動作します。</p>
ファイアウォールの設定	<p>デモシステムが正しく動作しない場合は、Windows のファイアウォールによって通信ポートが閉じられている可能性があります。もし、正しく動作しない場合は、ファイアウォールを無効にするか、必要なポート番号を解放する等の対応を行ってください。</p> <p>使用するポート番号： 6001：Panel Server と Panel Browser 間で使用 10001：Panel Server と受信機間で使用</p>
ウイルス対策ソフト	<p>同じく、デモシステムが正しく動作しない場合は、ウイルス対策ソフトによって通信ポートが閉じられている可能性があります。もし、正しく動作しない場合は、ウイルス対策ソフトを一時的に無効にするか、必要なポート番号を解放する等の対応を行ってください。</p>

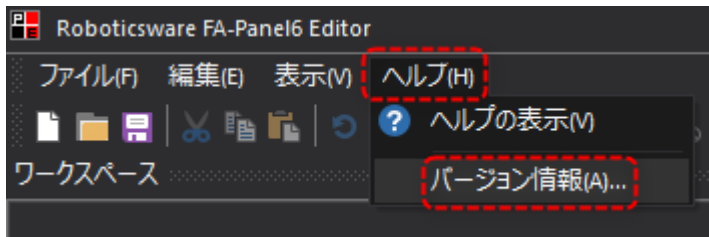
4.2. FA-Panel6 のインストール

パトライト殿向けのアプリケーションノート専用ページにある以下のボタンをクリックし、FA-Panel6 のインストーラをダウンロードしてください。デモシステムを動作させる PC の環境に応じて、32 ビット版、64 ビット版のいずれかを選択してください。

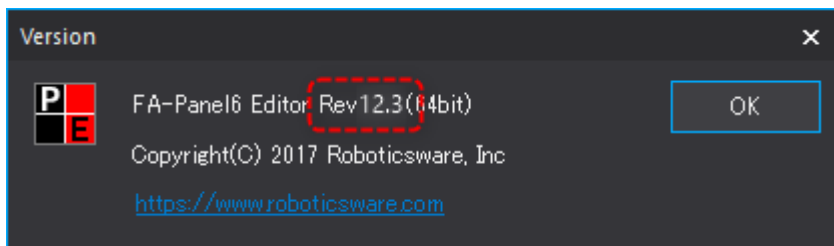


インストーラをダウンロードしたら、画面の指示に従って FA-Panel6 のパッケージソフトをインストールしてください。インストールオプションはフルインストールとしてください。

パッケージのインストールが完了したら、Panel Editor を起動して、メニューからバージョンを確認してください。



以下の部分の表示が「Rev12.3」以上であることを確認してください。



もし、Rev12.3 よりも古いバージョンの場合は、デモシステム（稼働監視機能）を動作させることができないため、ご注意ください。

4.3. デモシステムのアプリケーションファイルの配置

FA-Panel6 のデモアプリケーションは、配布ファイルの以下の zip ファイルに格納されています。

WDR_WDT_standard.zip

上記の Zip ファイルを、デモ用 PC の任意のフォルダで解凍してください。

Zip ファイルを解凍すると、「WDR_WDT_standard」というプロジェクトフォルダが作成されます。このフォルダ内にはいくつかのサブフォルダとともに「WDR_WDT_standard.prj」というファイルが格納されています。このファイルがデモアプリケーションのプロジェクトファイルです。

例) C:¥demo というフォルダを作成し、そこに解凍した場合

C:¥demo¥WDR_WDT_standard¥WDR_WDT_standard.prj

尚、上記のフォルダ構成と異なるフォルダ名とした場合でも、デモシステムは特に問題なく動作します。

4.4. デモアプリケーションの環境設定

実際に機器と接続する場合は、接続する機器の環境にあわせてデモアプリケーションの設定を変更してください。特に、タグの設定では、実際に接続する機器の MAC アドレスを登録する必要があります。

以下に、環境設定のための手順を説明します。

■サーバ環境の設定手順

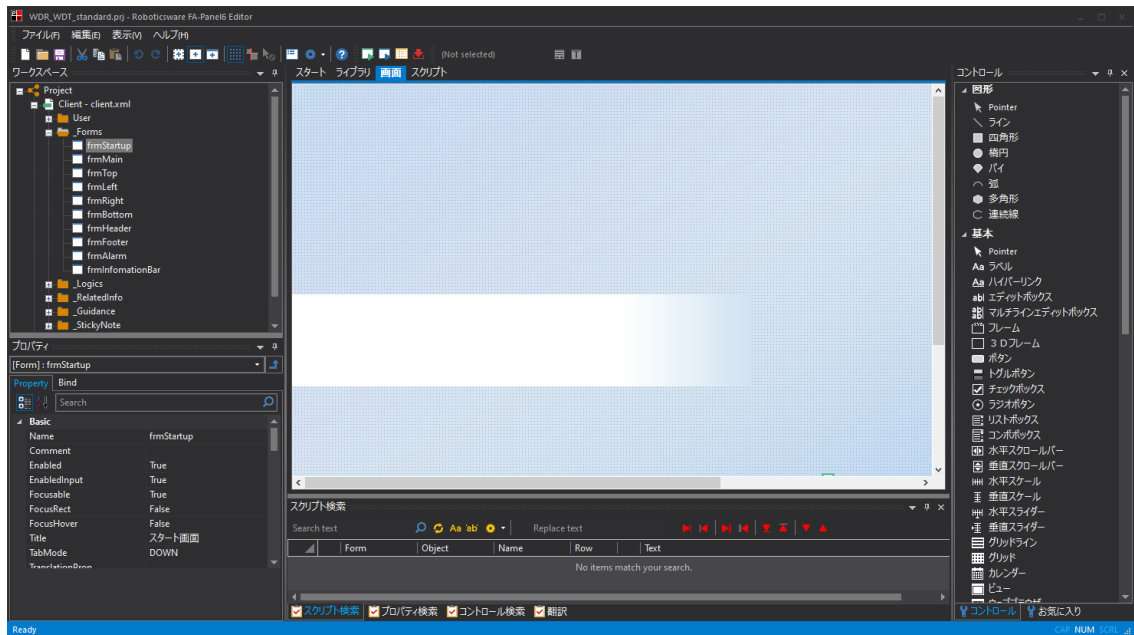
1. Panel Editor を起動し、デモアプリケーションのプロジェクトファイルを開いてください。

C:¥demo¥WDR_WDT_standard¥WDR_WDT_standard.prj

プロジェクトが正しく開かれると、Editor のタイトルバーに以下のようにプロジェクト名が表示されます。

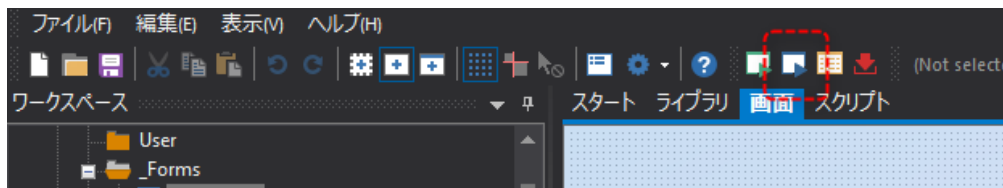


(Editor で開かれた状態)

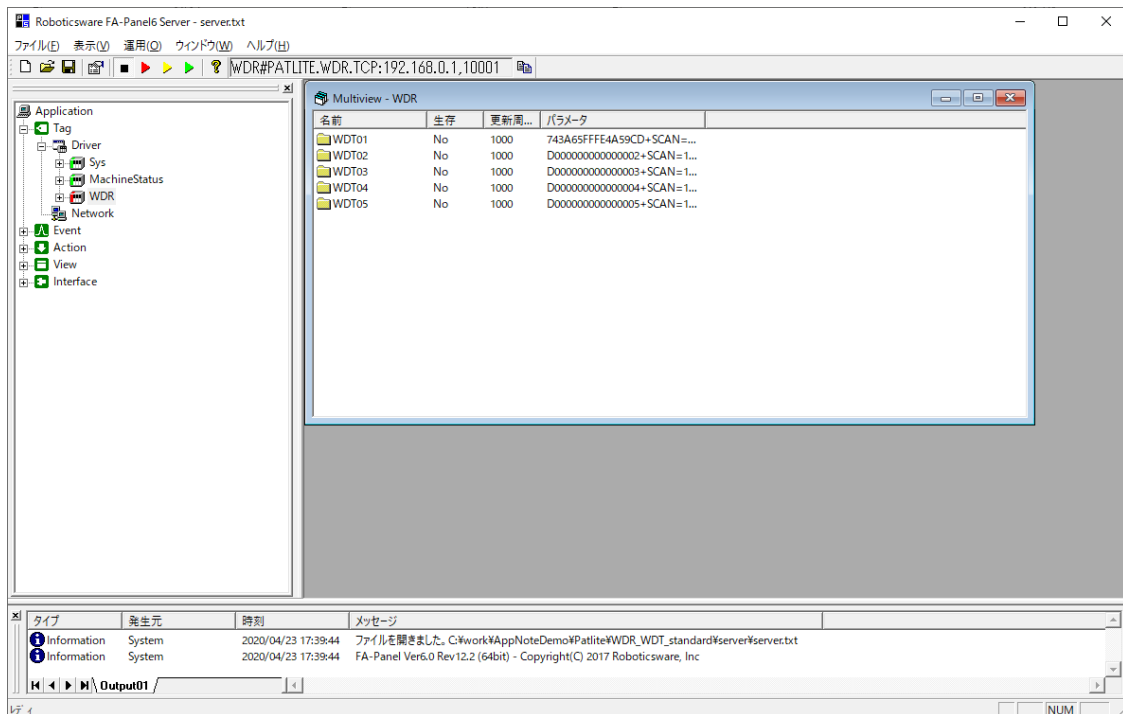


2. Panel Server を呼び出す

Editor のツールバーのアイコンから、以下の青い矢印のアイコンをクリックしてください。

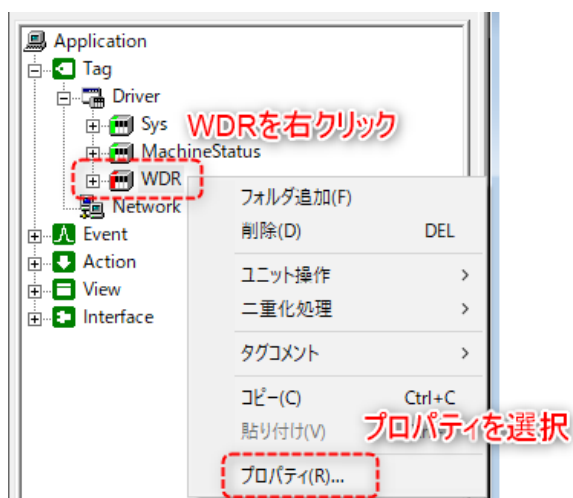


すると、デモアプリケーションのサーバ設定ファイルが開かれた状態で Panel Server が起動します。



3. 通信ユニットの IP アドレス、ポート番号の設定

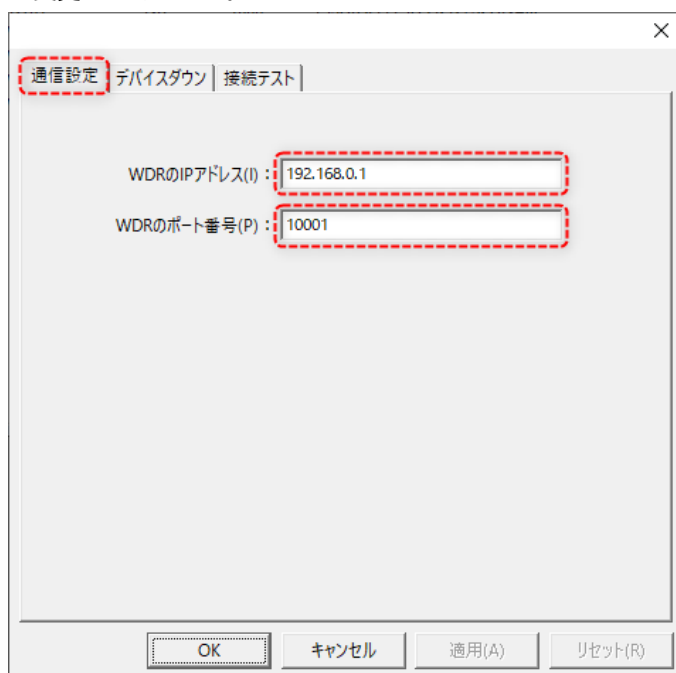
Panel Server の左ツリーから、Tag/Driver を開き「WDR」ユニットを右クリックしてプロパティを表示します。



プロパティが表示されるので、基本設定タブの「通信設定」ボタンをクリックしてください。



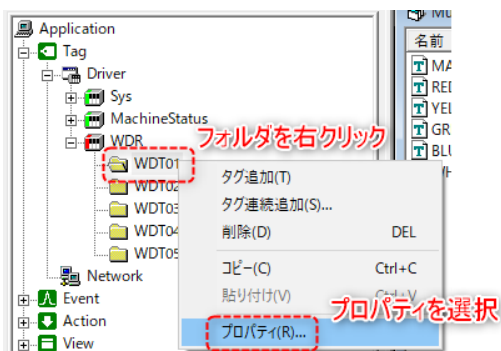
表示された画面から「通信設定」タブを開き、WDR 側の IP アドレスとポート番号を設定します。以下は工場出荷時の設定値が登録されています。もし、WDR の IP アドレスとポート番号を変更する場合は、以下の設定もあわせて変更してください。



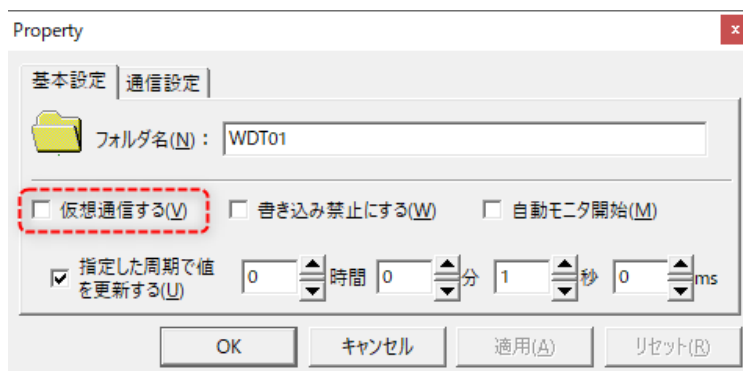
4. 通信フォルダの設定

WDR ユニットの配下には信号灯 1 台につき 1 つのフォルダとして、「WDT01」「WDT02」「WDT03」「WDT04」「WDT05」の 5 つのフォルダが登録されています。実際に機器と接続する場合は、各フォルダの設定に接続先の信号灯の MAC アドレスを登録する必要があります。

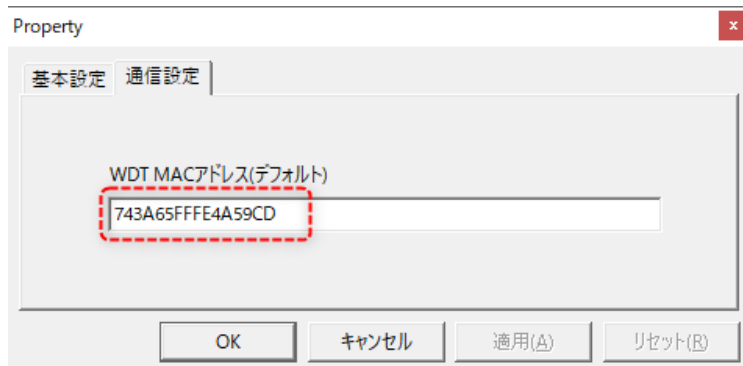
Panel Server の左ツリーから WDR ユニットを開き、配下にあるフォルダのプロパティを開きます。ここでは例として「WDT01」フォルダのプロパティを開きます。



フォルダの基本設定から、接続を行う信号灯のフォルダのみ「仮想通信する」のチェックを外してください。デフォルトでは WDT01 のみチェックが外れた状態となっており、他のフォルダはすべて仮想通信となっています。



フォルダの通信設定に、接続する信号灯の MAC アドレスを入力してください。尚、機器を接続しないフォルダについては、あらかじめ設定されている仮の設定値のまま変更する必要はありません（通信しないフォルダについては、仮想通信のチェックを入れたままにしておいてください）。



設定変更が終わったら、Panel Server の設定を上書き保存してください。

■クライアントとサーバを別々の PC で実行させたい場合

複数台の PC で稼働監視を実行させる場合（Panel Server と Panel Browser を別々の PC 上で実行させたい場合）は、サーバ側の Panel インターフェースの設定および、クライアント側のプロパティを変更する必要があります。

以下に、設定変更のための手順を説明します。

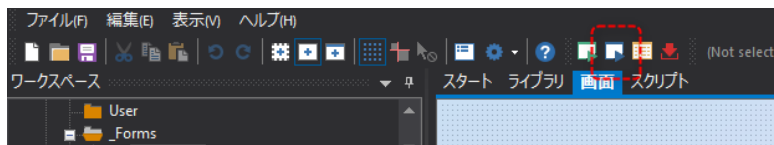
1. Panel Editor でデモアプリケーションのプロジェクトファイルを開いてください。

C:\demo¥WDR_WDT_standard¥WDR_WDT_standard.prj

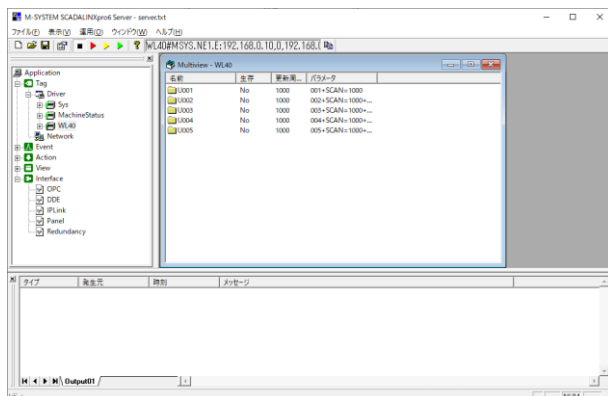
尚、既に開いた状態の場合は、再度開く必要はありません。

2. Panel Server の設定を変更する。

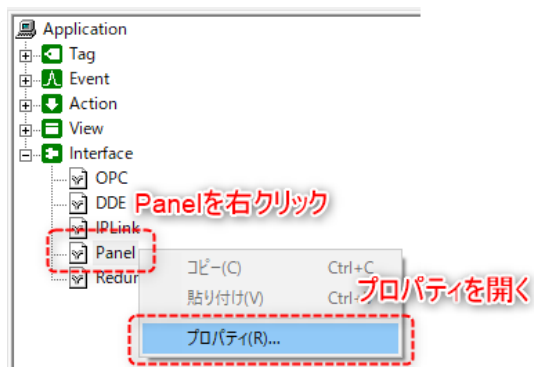
Editor のツールバーのアイコンから、以下の青い矢印のアイコンをクリックしてください。



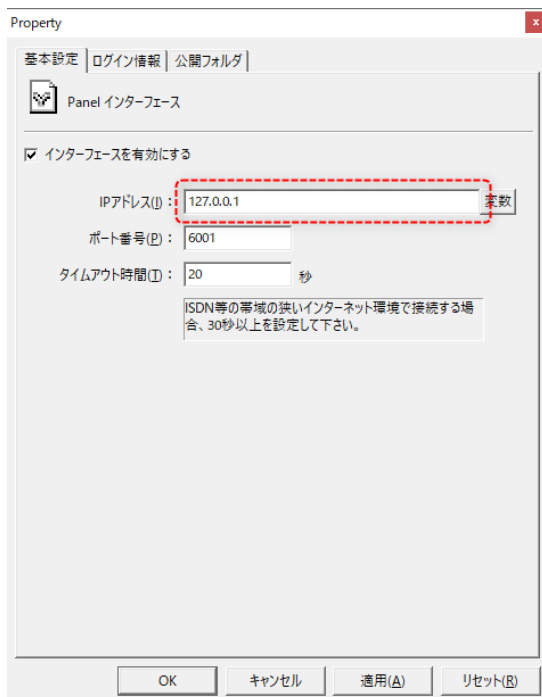
すると、デモアプリケーションのサーバ設定ファイルが開かれた状態で Panel Server が起動します。



Panel Server の左ツリーから Interface の「Panel」のプロパティを開きます。



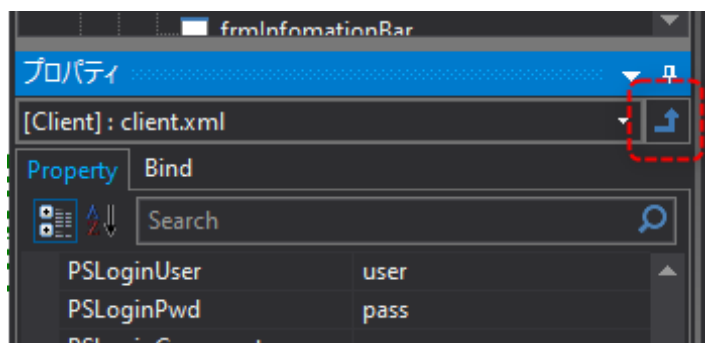
以下のダイアログの IP アドレスを、Panel Server を実行させる PC の IP アドレスに変更してください。



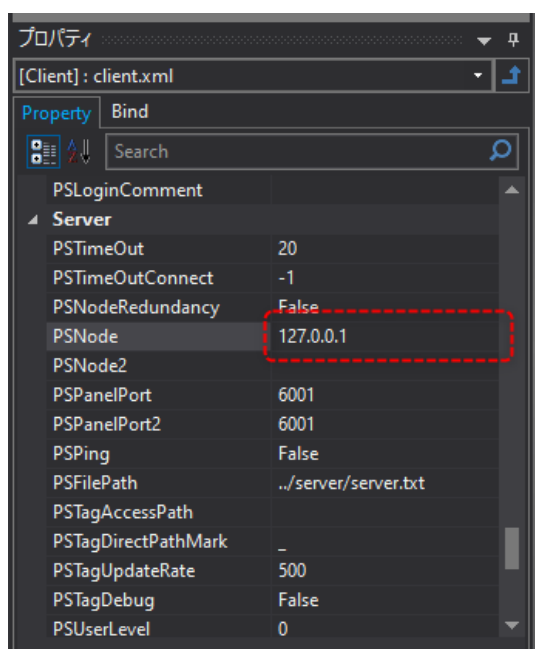
設定を変更したら、Panel Server の設定を上書き保存してください。

3. ルートプロパティの編集

Panel Editor の左下にあるプロパティページから、以下の矢印のアイコンをクリックしてください。



プロパティページに表示されているプロパティの中から「PSNode」を探してください（※PSNode プロパティは、リストの後半にあります）。



PSNode の設定を、Panel Server の Panel インターフェースに設定した IP アドレスに変更してください。

設定を変更した場合は、Panel Editor の設定を上書き保存してください。

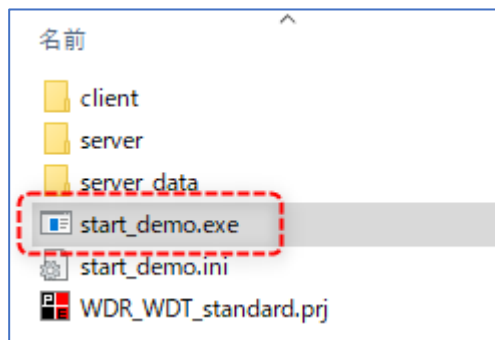
5. デモシステムの基本操作

5.1. デモシステムの起動方法（かんたん実行）

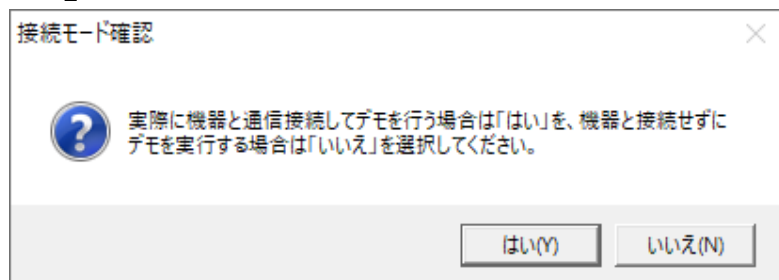
デモシステムは、プロジェクトフォルダ内にある「start_demo.exe」を実行するだけで簡単に起動することができます。

（プロジェクトフォルダ）¥start_demo.exe

（フォルダ内のイメージ）



start_demo.exe を実行すると、以下の確認画面が表示されます。



実際に機器と接続して通信を行う場合は「はい」を、機器と接続せずに FA-Panel6 のみでデモを行う場合は「いいえ」をクリックしてください。

すると、Panel Server および Panel Browser が起動し、稼働状況モニタ画面が表示されます。





実際に機器と接続する場合、Panel Server のオンライン後に正しく通信が行われるようになるまでに、1 分間程度かかる場合があります。



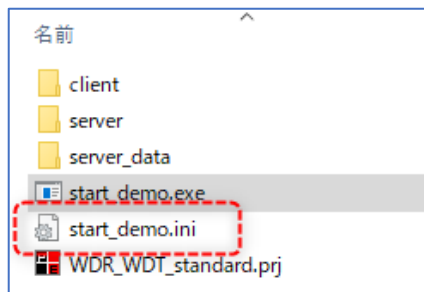
FA-Panel6 は、通常は以下のフォルダにインストールされます。

- ・ 64 ビット版の場合 ・ C:¥Program Files¥Roboticsware¥FA-Panel6
- ・ 32 ビット版の場合 ・ C:¥Program Files (x86)¥Roboticsware¥FA-Panel6

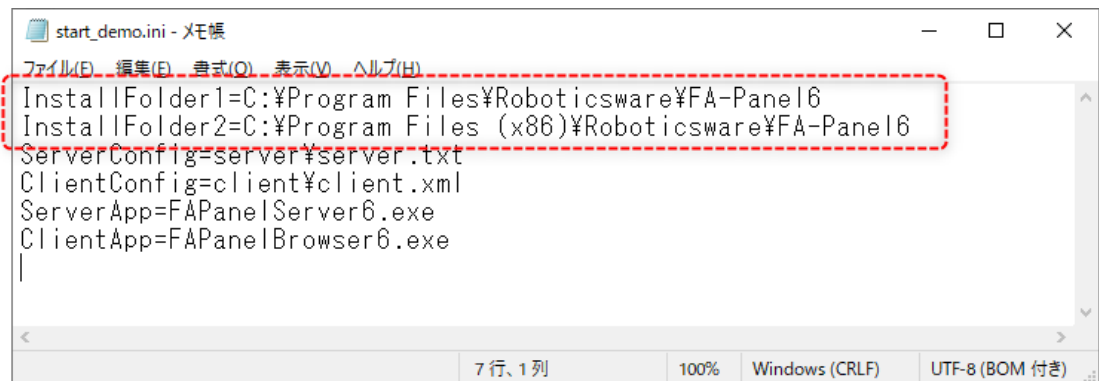
FA-Panel6 が上記と異なるフォルダにインストールされている場合は、以下の設定ファイルをメモ帳などで開いて、下記の部分を実際のフォルダ構成にあわせて変更してください。

(プロジェクトフォルダ) ¥start_demo.ini

(フォルダ内のイメージ)



以下は、メモ帳で開いた例です。



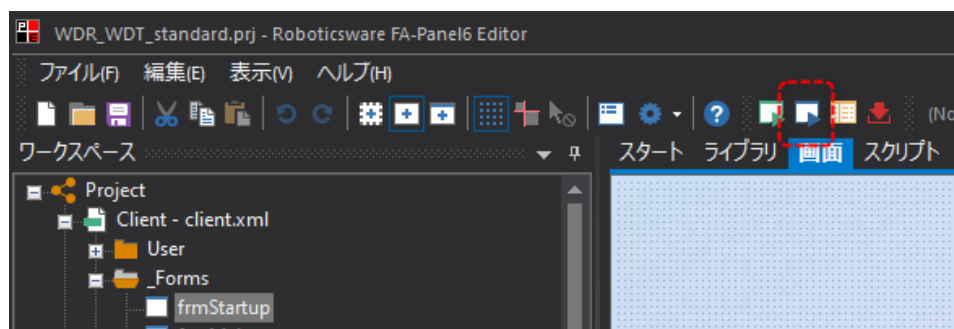
上記の 1 行目が 64 ビット版、2 行目が 32 ビット版のインストールフォルダの定義です。いずれか一方しかインストールされていない場合は、対応する行の設定のみを変更してください。設定を変更したら設定ファイルを上書き保存して、「start_demo.exe」を実行してください。

5.2. デモシステムの起動方法（手動実行）

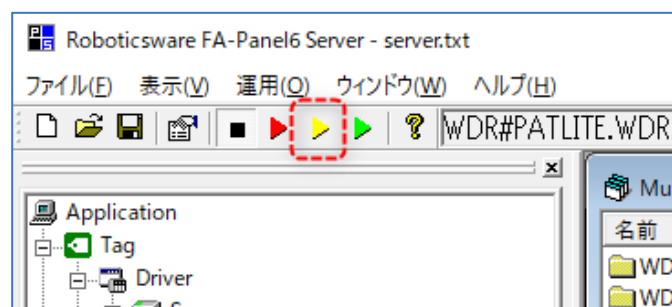
ここでは、start_demo.exe を使用せずにデモシステムを手動で実行する方法について説明します。

まず、PC 上で Panel Editor を起動し、デモシステムのプロジェクト「WDR_WDT_standard.prj」が開かれた状態にしてください。

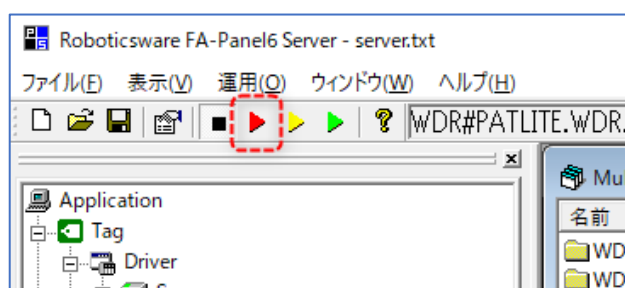
プロジェクトを開いたら、ツールバーの以下のアイコンをクリックし、Panel Server を起動してください。



実際に機器を接続して実行する場合は、対象の機器が正常に稼働していることを確認し、デモシステムの Panel Server を黄色矢印でオンライン実行してください。



機器を接続せずに FA-Panel6 のみでデモ実行させたい場合は、Panel Server を赤矢印（オンラインデバッグ）で実行してください。



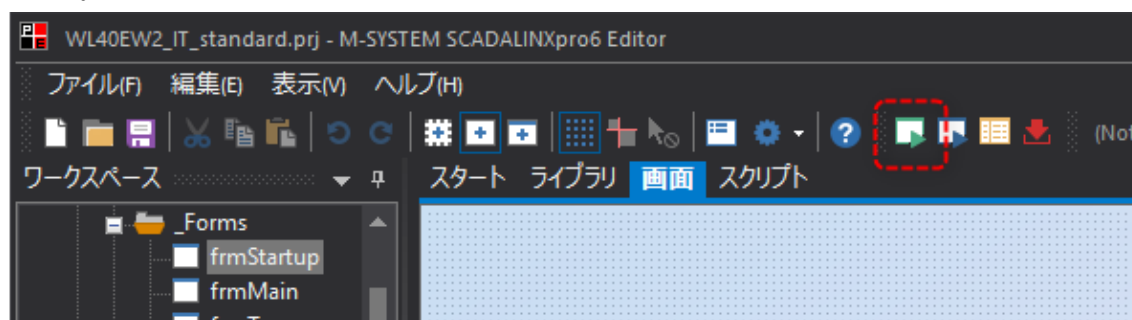
Panel Server がオンライン実行され、RED や YELLOW などのタグの通信状態（クオリティ）が GOOD になっている事を確認してください。

Multiview - WDR.WDT01					
名前	パラメータ	現在値	タイムスタンプ	クオリティ	更新周期(...)
MACADDR	000000...	***	***	***	***
RED	000000...	0	2020/04/23 18:34:24	GOOD	1002
YELLOW	000000...	0	2020/04/23 18:34:24	GOOD	1002
GREEN	000000...	0	2020/04/23 18:34:24	GOOD	1002
BLUE	000000...	0	2020/04/23 18:34:24	GOOD	1002
WHITE	000000...	***	***	***	***



実際に機器と接続する場合、Panel Server のオンライン後に正しく通信が行われるようになるまでに、1 分間程度かかる場合があります。

続いて、Panel Editor から以下のアイコンをクリックして、デモシステムのクライアント画面をオンライン実行してください。



Panel Browser が起動して、稼働状況モニタ画面が表示されました。



5.3. デモシステムの終了方法

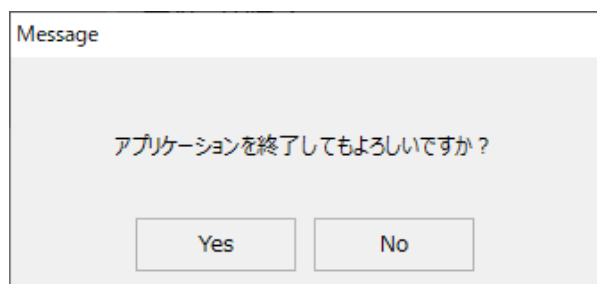
デモシステムを終了させるには、まず、クライアントアプリケーションを終了後に、サーバを終了します。

■クライアントの終了

クライアントアプリケーションの画面の右上に表示されている「×」ボタンをクリックします。



すると、画面中央に終了確認のメッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。

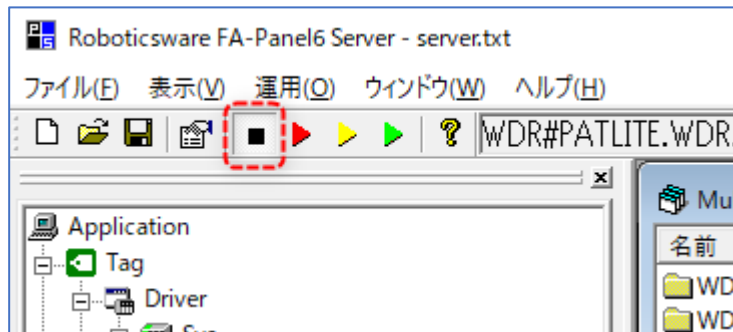


上記の操作により、クライアントアプリケーションのウインドウが閉じます。

■サーバの終了

続いて、Panel Server を終了させます。サーバを終了させる際には、まず、オフライン操作を行ってから終了させるようにしてください。

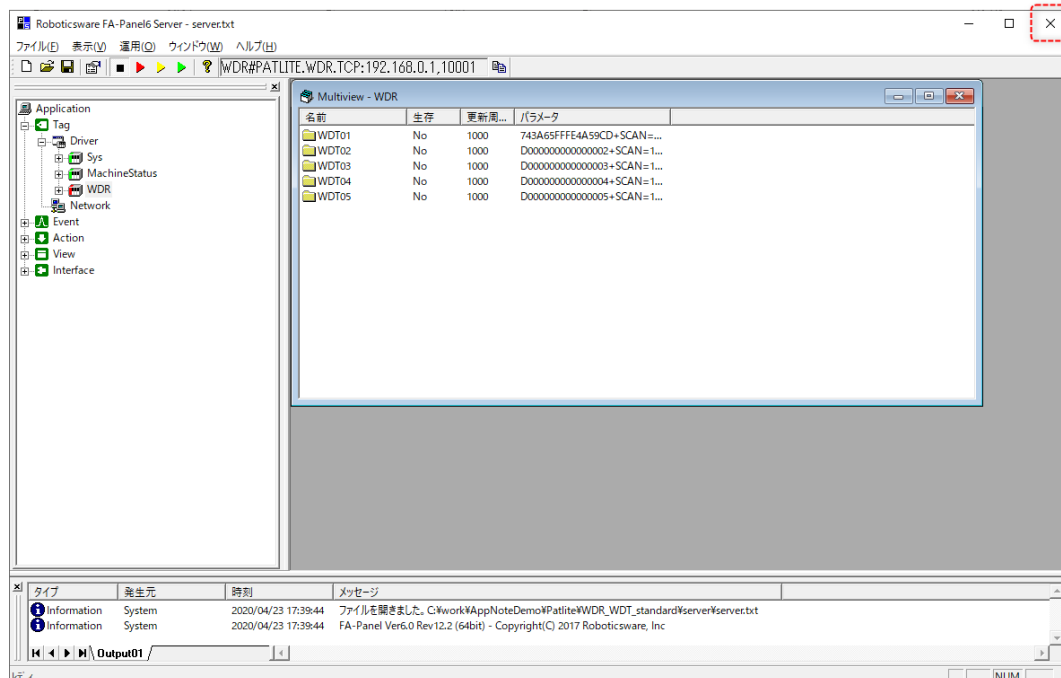
Panel Server のツールバーから、以下の黒四角のアイコンをクリックします。



オフライン操作が成功すると、Panel Server の画面下部のアウトプットログに「Offline」と表示されます。

タイプ	発生元	時刻	メッセージ
Information	System	2020/03/25 19:08:01	Offline
Information	Script2	2020/03/25 19:07:59	[MachineStatus.Script.TimeCal] Destroy
Information	Script2	2020/03/25 19:07:59	[MachineStatus.Script.StatusCal] Destroy
Information	Script2	2020/03/25 19:04:38	[MachineStatus.Script.StatusCal] 状態変化ログのメンテナンスが終了しました。
Information	Script2	2020/03/25 19:04:38	[MachineStatus.Script.StatusCal] 状態変化ログのメンテナンスを開始します。
Information	System	2020/03/25 19:04:37	プロセッサを再起動します。

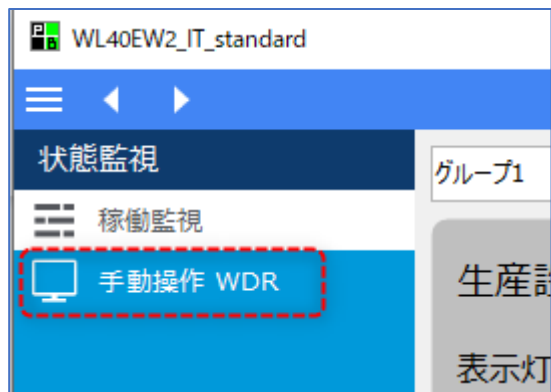
正しくオフラインになったことを確認したら、Panel Server のウィンドウの右上にある「×」ボタンをクリックしてアプリケーションを終了させてください。



5.4. 信号の手動操作

実際に機器を接続せずにデモを実行する場合、デモ用に用意された手動操作画面から信号の状態を編集することができます。

クライアント画面の左メニューから以下の項目を選択すると、手動操作画面がポップアップ表示されます。



以下は、手動操作画面が表示された状態です。



各ボタンはセレクトスイッチとなっており、表示灯の各ランプに相当する信号（タグ）に値を書き込むことができます。例えば、生産設備1のランプ1（赤ランプ）の点灯を模擬する場合は、以下のREDの欄の「1:点灯」ボタンをクリックします。



すると、対象の信号に値が書き込まれ、稼働状況モニタ画面の表示も同様に変わります。



尚、生産トリガの信号を模擬する場合、2秒から3秒程度のパルス信号となるように操作してください。具体的には、対象の信号が 0:OFF の状態から、1:点灯ランプを一度クリックして ON にした後、数秒後に 0:OFF ボタンをクリックして値を OFF に戻すようにしてください。

6. Appendix：タグ一覧

ユニット	フォルダ	タグ名	タイプ	コメント	備考
WDR	WDT01	MACADDR	汎用	MAC アドレス	接続機器の MAC アドレスを取得
		RED	数値	1:停止中 2:故障	1：停止中（赤点灯）、2：故障（赤点滅）
		YELLOW	数値	1:処置中 2:呼出し	1：処置中（黄点灯）、2：呼出し（黄点滅）
		GREEN	数値	1:運転中	1：運転中（緑点灯）、2：予備（緑点滅）
		BLUE	数値	1:生産トリガ	1：生産トリガ（青点灯）、2：予備（青点滅）
		WHITE	数値	予備	1：予備（白点灯）、2：予備（白点滅）
	WDT02	MACADDR	汎用	MAC アドレス	接続機器の MAC アドレスを取得
		RED	数値	1:停止中 2:故障	1：停止中（赤点灯）、2：故障（赤点滅）
		YELLOW	数値	1:処置中 2:呼出し	1：処置中（黄点灯）、2：呼出し（黄点滅）
		GREEN	数値	1:運転中	1：運転中（緑点灯）、2：予備（緑点滅）
		BLUE	数値	1:生産トリガ	1：生産トリガ（青点灯）、2：予備（青点滅）
		WHITE	数値	予備	1：予備（白点灯）、2：予備（白点滅）
	WDT03	MACADDR	汎用	MAC アドレス	接続機器の MAC アドレスを取得
		RED	数値	1:停止中 2:故障	1：停止中（赤点灯）、2：故障（赤点滅）
		YELLOW	数値	1:処置中 2:呼出し	1：処置中（黄点灯）、2：呼出し（黄点滅）
		GREEN	数値	1:運転中	1：運転中（緑点灯）、2：予備（緑点滅）
		BLUE	数値	1:生産トリガ	1：生産トリガ（青点灯）、2：予備（青点滅）
		WHITE	数値	予備	1：予備（白点灯）、2：予備（白点滅）
	WDT04	MACADDR	汎用	MAC アドレス	接続機器の MAC アドレスを取得
		RED	数値	1:停止中 2:故障	1：停止中（赤点灯）、2：故障（赤点滅）
		YELLOW	数値	1:処置中 2:呼出し	1：処置中（黄点灯）、2：呼出し（黄点滅）
		GREEN	数値	1:運転中	1：運転中（緑点灯）、2：予備（緑点滅）
		BLUE	数値	1:生産トリガ	1：生産トリガ（青点灯）、2：予備（青点滅）
		WHITE	数値	予備	1：予備（白点灯）、2：予備（白点滅）
	WDT05	MACADDR	汎用	MAC アドレス	接続機器の MAC アドレスを取得
		RED	数値	1:停止中 2:故障	1：停止中（赤点灯）、2：故障（赤点滅）
		YELLOW	数値	1:処置中 2:呼出し	1：処置中（黄点灯）、2：呼出し（黄点滅）
		GREEN	数値	1:運転中	1：運転中（緑点灯）、2：予備（緑点滅）
		BLUE	数値	1:生産トリガ	1：生産トリガ（青点灯）、2：予備（青点滅）
		WHITE	数値	予備	1：予備（白点灯）、2：予備（白点滅）

※上記の信号は全て、「0」は消灯を表します。